

## 海外医師会との交流

### (1) アメリカ医師会 (AMA) 年次総会

2022年6月13、14日の両日、シカゴで開催された AMA 年次総会に橋本常任理事が出席した。COVID-19の影響により、3年ぶりの現地開催であり、すべての参加者に受付時に配布される抗原検査キットによる陰性証明が求められるなど、感染対策が徹底された形での開催であった。

13日の海外賓客夕食会では、AMA からジェームズ・マダラ CEO、ジェラルド・ハーモン会長、スーザン・ベイリー前会長を含む歴代会長、日本、カナダ、タイ各国医師会、WMA ハイジ・ステンスミレン会長（スウェーデン医師会）、フランク・ウルリッヒ・モントゴメリー議長（ドイツ医師会）、オートマー・クロイバー事務総長が参加した。

14日は、ジャック・レスネック・ジュニア新会長（2022年－2023年）の就任式が行われた。同会長はサンフランシスコの皮膚科医である。就任挨拶に際し同会長は、COVID-19との闘いは現在も続いているとし、パンデミックの多くの予期せぬ課題に立ち向かう中で、医師は絶えず適応し克服してきたこと、団結により効果的なワクチンの迅速な開発を含む大きな成果をもたらしたこと、そして、専門職を前進させ続け、医療制度の機能不全や医師の燃え尽き症候群などの問題への対処に適用することができることなどに言及した。

次期会長には、ウィスコンシン州の麻酔科医のジェシー・M・エーレンフェルド氏を選出された。

総会では、「公衆衛生における偽情報への対処」、「気候変動を公衆衛生上の危機と宣言」、「COVID-19の公衆衛生緊急事態終了後の保険の補償範囲喪失の防止」、「医学生の実績評価におけるバイアスの低減」などの議論が行われた。

### (2) 日本医師会、韓国医師会、インド医師会、台湾医師会共催「COVID-19 シンポジウム：新しい時代における全人的医療」

2022年8月26日、台湾医師会タイ・ユアン・チウ会長からの依頼により、「COVID-19 シンポジウム：新しい時代における全人的医療」が、日本、韓国、インド、および台湾医師会による共催としてオンラインで開催された。

松本会長、韓国医師会ピルソー・リー会長、インド医師会サハジャナンド・プラシード・シン会長、台湾医師会チウ会長による開会挨拶に引き続き、イエ・ウェイ・チョン CMAAO 議長が来賓挨拶を行った。

COVID-19の感染状況、罹患後症状、医師会の役割に関してセッションが行われ、本会は、今村常任理事が進行を務め、釜范敏常任理事が「我が国における post COVID-19 condition の現状」と題して講演を行った。パネルディスカッションでは、高額な治療薬の取り扱い、ワクチンの副反応、罹患後症状などの状況について意見交換が行われた。

### （３）トルコ・シリア大地震におけるトルコ医師会への支援

2023年2月6日にシリア国境に近いトルコ南東部で発生したマグニチュード7.8の地震に対する支援の一環として、AMDA に対し初期活動支援金として500万円（トルコ医師会への支援金300万円含む）を提供した。今回の震災を受け、AMDA では医師1名、看護師1名、調整員1名による医療チームを編成。2月13日にトルコ医師会を訪問して、松本会長のお見舞い状と共に、義援金をシェプネム・ピンジャンジュ会長に手渡した。

ピンジャンジュ会長から、遠路からの来訪および支援金と手紙に対して謝意が述べられた。また、東日本大震災でトルコ救援隊による支援活動が行われたことを踏まえ、世界で自然災害が発生した際には、国を超えて共に助け合うことの呼び掛けがあった。支援金は物資を現地に運ぶ車両の購入に充てられる予定とのことであった。その後、同医療チームは被災地であるアダナに赴き、アダナ医師会を訪問。セラハッティン・メンタス会長と面談し、協力して支援活動を行うことを確認。拠点には日本医師会の旗を掲げるとともに、日本医師会とAMDA 両方の名前が入った腕章を着けて支援活動を続けた。日本医師会では、全国の医師会および会員からの支援金を呼び掛けた。

### （４）キルギス医師会研修への協力

「キルギス共和国『非感染性疾患の早期発見・早期治療のためのパイロットリファラル体制強化プロジェクト』」の一貫としてJICA より研修依頼を受け、2023年3月8日、「非感染性疾患（糖尿病）に対する日本医師会の取り組み」と題して黒瀬常任理事が講義を行った。参加者は、キルギス医師会会長、キルギス保健省、国立生涯教育センター、市・地区一般医療センター、州総合病院等の12名であった。

キルギス共和国では、若年層を含め非感染性疾患（NCDs）による死亡率が約8割と高く、NCDs の早期発見・診断および治療に必要な医療機材の整備、医療サービスの質の改善が喫緊の課題とされている。研修では、かかりつけ医と生活習慣病、かかりつけ医機能に係る診療所、病院の機能分化、機能連携の仕組みおよびかかりつけ医機能研修制度を概説し、かかりつけ医の有無が国民の生活習慣の意識に関係し、日常の健康管理にも影響することを述べた。そして、生活習慣病の発症および重症化予防が重要とし、地域のかかりつけ医の役割が増大していることを強調した。